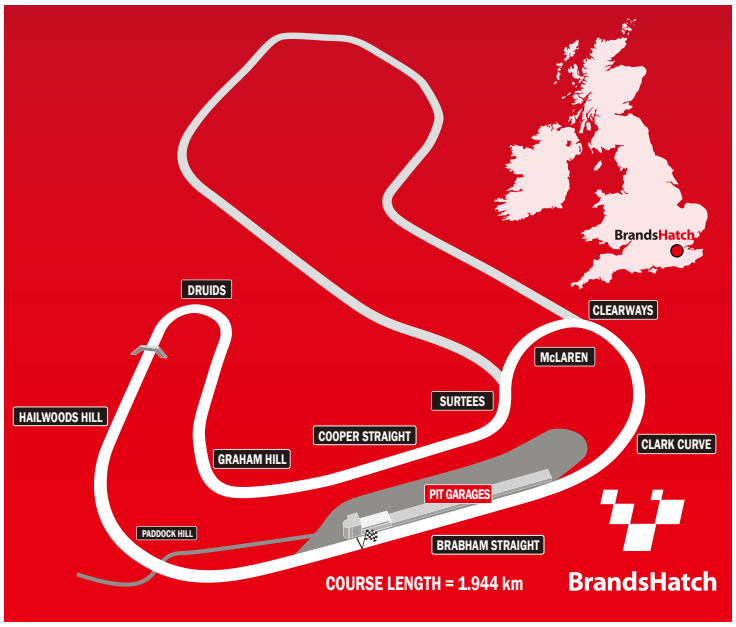
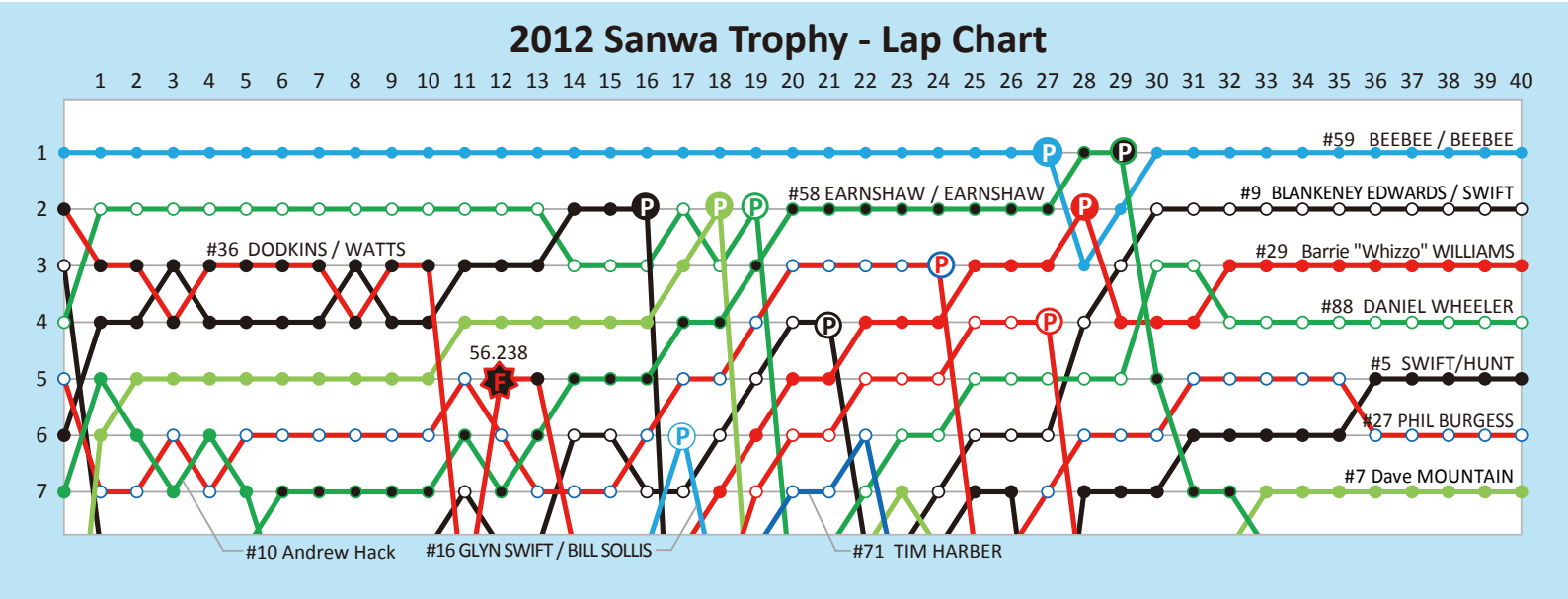
冷静沈着なレース運びで Beebeeがポールトゥーウィン！

6月17日（日）ブランズハッチのスターティンググリッドに26台のヒストリックレーシングミニが並んだ。15：32、オールレッドシグナルと共に『2012三和トロフィー決勝』の幕が切って落とされた。

スタート直後、4番手スタートの Daniel Wheeler（＃88）が2位にジャンプアップ。前半はこれに Patrick Watts（＃36）、Nick Swift（#5）、Dave Mountain（＃7）の4台によるバトルが繰り広げられた。Watts（MINI SE7EN チャンピオンの経験者で、元 BTCC ドライバー）は12周目に最速ラップ 56秒238 を出すも直後にリタイヤ。その後、Swift（SWIFTUNE のオーナー）と Mountain（MOUNTUNE の創設者）が 2位の Wheeler に襲い掛かる。最初に動いたのは Swift。14周目に Wheler をパスした後、17周目にピットインし2位で Hunt にドライバーチェンジ。続いて19周目に Mountain、20周目に Wheeler と次々にピットイン。目まぐるしく順位が変わる中、22番手スタートと出遅れていたアングロフレンチバトルの勝者 Glyn Swift / Bill Sollis 組（#16）が17周を終えて6位まで浮上するが、予選でホイールが外れるアクシデントに見舞われる厳しい状況の中遭えなくリタイヤ。

一方、急浮上してきたのは、11番手スタートの Barrie "Wizzo" Williams（#29）。折り返しの20周を終えて5位まで上り詰め、29周目まで引き延ばしてのピットイン時には2位。ドライバーチェンジは行わず規定の30秒間のピットストップ。4位でコースに復帰後、32周目に Wheeler をパスし3位でフィニッシュ。2位は Patrick Blankeney-Edwards（#9）。22周目に4位でピットインしてきた Blankeney の車に何と Nick Swift が再乗車。競技委員に許諾を得たとはいえ、前代未聞の2台に跨っての出走。30周目に2位まで浮上し、そのまま残り10周を走り切ってフィニッシュ。そして40分の間、25台のヒストリックミニのバトルを従え、ポールポジションから終始これらの経験豊かなドライバーを抑え込んでトップを守り切った若きドライバー Josh Beebee と父の Robert Beebee 組が三和トロフィ―耐久レースを制した。新しいスターが誕生した瞬間であった。終わってみれば、完走14台のサバイバルレースであった。